1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077500132		
法人名	有限会社ひがし		
事業所名	グループホーム三春		
所在地	うきは市浮羽町三春1982-1		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果確定日	平成26年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&i_gyosvoCd=4077500132-00&PrEfCd=40&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

三春祭りや季節ごとの行事を行っております。ご家族や地域の方々のボランティアにも応援をお願いして、交流をはかっております。また、各個人も自由に生活しながらできることは手伝ってもらい楽しくせいかつができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム三春」は雄大な耳納連山が望める浮羽町にあり、周囲を田畑に囲まれ、自然を身近に感じるとる事が出来る閑静な環境下の平屋建ての事業所である。裏庭にはウッドデッキがあり、そこを活用して気軽に日光浴を楽しんだり、夏には木陰で流しソーメン、秋には庭を囲んで三春祭りを企画して喜ばれている。地域交流も進めており、地域住民を招待したクリスマス会や食事を開催したり、昨年から小学校の職場体験の受け入れも行っている。毎日のレクリエーションとしてはリハビリ体操を取り入れており、手足や全身を動かすタオル体操やカラオケを活用したレクなど変化をもたせて継続したサービスを行う他、入居者それぞれに役割をもってもらって、家事や菜園の世話など、能力を活かしてやる気の出るような取り組みをしている。開設から10年が経ち、これからも益々サービスの向上と地域発展への関わりが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☒ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☒ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☒ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☒ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☒ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☒ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☒ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し、再確認して業務にあたっている。	開設時に作られた事業所独自の理念があり、事務所とフロア内に掲示され、毎朝の申し送り時に唱和してから業務に入っている。繰り返して浸透することで、今では暗唱出来る職員もいる。「尊厳のある生活」を中心に、入居者それぞれがその人らしく生活できるようなケアを心がけ、地域交流にも力を入れている。	理念に馴染みをもって事業所全体でサービスに活かしているが、具体的な行動方針や、月間の目標を立てたり、理念の振り返りの機会をすることで、さらに理念の実現に向けた取り組みがなされることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	イベント時には地域の方にも参加してもらっている。また周囲の方から野菜をいただくこともある。	散歩時に挨拶を交わしたり、日常的にも気軽に地域の方も訪れ、ボランティアにも地域の方が多い。独居の方を招いたクリスマス会はチラシを配って案内もしており、毎月作成する「三春だより」は校区的回覧板にもいれて配布されている。近隣の方との交流は多く、差し入れを頂いたり、区長もボランティアで来られることもあった。	日常的にも地域交流が持たれているが、さらに事業所と地域との関わりを深めるために、地域行事への手伝いや、情報発信がなされることにも期待したい。また、町内会の加入状況や地域情報が共有されることも望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の生徒と交流したりして、認知症をもっと身近に感じてもらい知ってもらえるようにしてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い意見をいただいている。またそこでの意見を取り入れ反映させている。	区長、駐在員、民生委員、行政や家族などが参加されており、行事案内や報告を行い、地域情報の提供や防犯情報などを頂くこともある。直近でもイベント運営に関してアドバイスをもらい、積極的に会議が運用されている。外部評価結果の報告もしており、玄関先に閲覧用の文書も設置されていた。	幅広い参加者によって、活発な会議運用がなされているが、家族代表が固定されてきているので、案内を広げたり、地域包括センターへも案内を呼び掛けてはどうだろうか。また、イベントや食事会などと同日に開催することで、さらに取り組みを知ってもらうことなどにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に市役所福祉課の職員が参加してくださっている。	介護保険申請時などに窓口を訪問するほか、電話でも質問や相談などを行う。運営推進会議にも毎回参加されており、市主催の勉強会などでも関わる機会も多くボランティアとして来てくれる事もある。現在、事業所で徘徊ネットワークを組織しているところだが、協力を要請する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはブザーを設置し、日中鍵をかけずに音でスタッフか気付けるようにしている。	玄関施錠は夜間のみで、見守りによって管理している。離脱リスクに関しても、徘徊模擬訓練によって事業所同士のネットワークを作り、近隣住民からも連絡をもらえるように連携をとっている。声かけなど拘束につながる行為に対しては管理者が気付いた時に指導している。	近隣住民や事業所同士のネットワークによって徘徊リスクに備えているが、拘束に関する全体的な理解を深めていくために、計画的な研修や勉強会の開催がなされることにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的にどのようなことが高速や虐待になるかはなしている。		

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度について学ぶ機会があり、必要ならば、活用できるようにしている。	成年後見制度の外部研修に以前参加したこともあり、定例会議で共有を行った。過去には制度利用された方もおり、管理者が担当し支援を行っている。制度のパンフレットは常備しており、必要な時には提案、説明が出来るようにしている。	基本的な制度の周知はなされているが、事業所全体での理解度を高めていくために、勉強会や研修などが行われていくことが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類とともに口頭でも説明し同意をえている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時にケアプランの説明し、運営推進会議のときに希望や意見などはないか尋ねるように心がけている。	玄関に目安箱を設置してあるが、面会時に意見を聞くことが多い。運営推進会議に参加する家族から意見を頂くこともある。以前、外出に関しての要望があった際も対応してきた。面会の少ない方には電話でコミュニケーションをとるほか、毎月の近況報告に職員が一人一人手紙を書いており、事業所発行「三春だより」によっても日頃の様子を伝えている。	手紙や電話などによって、日頃の情報の共有がされている。以前から家族会を開催したいという要望があったので、行事と合わせて開催したり、気軽に参加しやすいやり方を話し合うことで、実現に向けた取り組みがなされることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を毎月説明し、そして意見を聴いたり、必要があるときは業務会議をし、意見要望を聞いている。	定例会議にはパートを含めて全員が参加しており、備品の購入やケア改善に関してなど、積極的に意見が出されて改善されてきた。日頃から要望は管理者にあげて伝達されており、意見があげやすく、実際に反映もされている。事業所全体でも意見の言いやすい風土が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績や労働時間などを考慮し賞与の金額に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人権の尊重は十分に配慮しており、なるべく多くの人を採用している。	職員は男女20歳代～60歳代まで幅広く、それぞれの経験や能力を活かしながら、カラオケや手作業などのレクリエーションなどに取り組んでいる。研修案内も通知し、参加したいものがあれば勤務として参加されている。シフトも希望を取り入れながら調整し、休憩場所や休憩時間も確保されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一部のスタッフは研修を受けており、パンフレット・テキストはある。	行政が主催する人権に関する外部研修に参加しており、9月に定例会議で報告予定である。マニュアルや人権関連の参考書籍が備え付けてあり、自由に閲覧することが出来る。	外部研修に参加した際は伝達を行っているが、事業所内でもマニュアルや参考書籍などを活用された研修や話し合いなどが行われることも望まれる。

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修など出席できるよう必要があればシフトを調整するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加している。それをとおして行われる情報交流会や他の施設の見学会などに参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族へのアセスメントを元にコミュニケーションを図り職員間の情報を共有しながら苑での生活が少しでも安心なものになるように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアカンファレンスでの家族の思いや要望を受け止め、職員・家族が同じ思いで本人を支えていけるように務めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入居者が他のサービスを利用することは難しい面もあるが、認知症以外の疾患をかかえている入居者も多く医療との連携の強化に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、個々の身体状況、自立度を考慮しながら、出切る事は本人に参加してもらい、出来ないことを支えていくように心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を蜜にししながら、面会や催事への参加を図ると共に同じ思いで支えていけるように心がけている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑内での生活が主になってきており、家族との外出さえできなくなっている。苑へ地域の参加はあるが、地域への参加が出来ない現状であり、考慮する必要があると思う。	面会をいつでも気軽に受け入れるようにしており、知人や近所の方が訪問することもある。家族とも協力して馴染みの場所に連れて行ってもらったり、自宅近くを訪ねたりもするほか、お盆や正月には一時外泊の協力もしている。普段の会話から話を広げていって馴染みの場所や関係を探り、家族とともに支援をしている。	

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、理解度、状態により、席順をきめたり、組み合わせを考えたりスタッフが見守りながら対応する。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支障がないよう対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思い希望をくみとり無理のないようプランの見直し、話し合いに務めている。	アセスメントは本人、家族とも相談し、6ヶ月毎に見直しも行う。意思疎通の難しい人とは表情や声などを細かく観察し、性格なども読み取ることで好き嫌いなどを把握している。ケアマネージャーが主に担当してコミュニケーションを図り、遠方の家族とも電話によってやりとりをしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況・環境などを把握し、穏やかに過ごせるように務めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録申し送り業務日誌等で現状を把握し、ケア会議で内容の見直しに務めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の1人1人の生活状況を把握し、ケア会議で話し合い重要な事項がある場合には定例会で、各担当の意見も取り入れ見直している。	モニタリングを毎月行い、ケアプランの目標と照らし合わせてケア会議で話し合うほか、日頃から気付いたことがあればミニカンファレンスをこまめに開いている。ケアプランは半年ごとに定期的に見直し、プラン外の項目も随時話し合っで見直している。職員は一人が1, 2名の入居者を担当し、モニタリングや家族へ状況報告の手紙を作る。実施記録とケアプランは一緒に管理することで、個々の情報を全員で共有できるようにしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌のケース記録申し送りで、情報の共有に務めケアの見直しや、プランに役立てている。		

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により家族の宿泊を取り入れているが、多機能化までは至っていない。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事を通して地域ボランティアの受け入れはあるが、本人と地域支援を繋げるまでには至っていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が在宅訪問診療を取り入れているが、本人ご家族が望む病院への受診があれば、対応できるようにしている。	希望するかかりつけ医は継続してもらい、在宅訪問診療によって2週に1回、内科医の往診がされる他、看護師とも医療連携しており、毎週健康確認もされている。通院介助は事業所によって支援し、遠方の場合などは家族介助もしてもらう。受診情報はその都度確認し、往診時は医師から家族に連絡してもらい、事業所では介護経過記録によって情報共有されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と医療連携をとっている。週1回看護師が来苑し、その際入居者の状況報告や相談をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	在宅訪問診療をとりいれることで、医療機関との協働が図りやすくなり、情報交換もやすく、入院した場合も退院後のケアに関する相談ができています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	みとり同意書・ご意向確認書をいただき、ご家族の意思を確認している。また、みとり介護の対応方針を明記した書類があり、配布し説明している。	入居時に事業所方針の説明をして意思確認し、状態に変化があった際に再度説明を行う。以前1名看取りを行っており、対応時は主治医立ち会いのもと、説明、同意を行った。提携医は24時間対応であり、職員に対しての勉強会や指導も行っている。今後も看取りの希望があれば受け入れていく方針である。	事業所として看取りケアを行っていく方針であり、今後も想定される受け入れに備えて、計画的な事例検討や勉強会などが行われることが期待される。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の救急救命士から救急法の講習をうけている。		

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練を行い、有事の際にあわてることがないように務めている。	年2回、消防署立ち合いのもと夜間想定訓練を実施している。火元を台所に限定せず廊下等に変えて実地し、確認した部屋に蛍光塗料のシールを貼って効率化している。避難経路図も事務室に掲載しているし、水やレトルト食品の備蓄も2日分、確保している。	今後は地域住民への呼びかけや、特に町内会長には積極的に働きかけを行うなど、地域との協力関係を構築されることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉かけを心がけている。またトイレなどの声掛けはさりげなく行うようにしている。	利用者が自分に話しかけられていると分かって貰えるように、傍に行き優しい言葉で話すように心掛けている。年長者に対する礼儀をわきまえた上で同性の方には名前呼びかけの事もある。お便りに掲載する写真については家族の了解を得ると共にプライバシーに配慮した掲載を行っている。	今後は、外部研修への参加を増やしたり、受講者の報告研修会を実施するなど、研修の機会を更に増やされることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの希望があればご家族と連絡をとり、希望に添えるようにしている。また、日々の生活の中でも常に入居者がしたいことが選べるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れは決まっているが、その中でしたいことしたくないことは本人の意思を尊重して対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要なときに地域の理髪店の人に来てもらい、散髪をしている。また希望者は行きつけの理髪店にご家族に連れて行ってもらう。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バリエーションのある食事内容を考えている。また、もやしの芽つみや台ふきなどできることは入居者に手伝ってもらっている。	献立委員会がメニューを作っているが、全職員にも一品メニューを考えて貰って、担当者が調理を行っている。近隣の農家から頂く野菜を使って、新鮮で季節感溢れる料理を作っている。利用者ができる事は一緒に手伝って貰い、一緒に食事をしながら嗜好の把握を図っている。年に1回は外食レクも実施している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックしている。		

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日・朝夕口腔ケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行が困難な人は手引き誘導し、トイレで排泄をしてもらっている。自力でトイレにいけない人は、スタッフから声かけをし誘導している。	各自の排泄チェック表に基づいて排泄時間や便の量、失禁の有無などを把握し、それぞれのリズムに合わせてトイレ誘導している。オムツを使用している声掛けによってポータブルトイレで排泄できるようになるなど自立に向けた取り組みも進んでいる。毎月の定例会でオムツの必要度などを職員で話し合い、個々の状態に合わせた改善策を探求している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や魚・肉を偏らないようにメニューの中に取り入れている。1日の中で野菜を多く取るようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴してもらえるようにしている。入浴するかどうかも基本的には個人が決めている。	本人の希望を優先させながら、午後4時～5時半の間に入浴して貰っている。入浴を拒否する人には、声を掛ける職員を変えたり、時間帯を変えたりして対応しているが、3日間くらいは入れなくても待つようにして本人の意向を尊重している。ゆず湯などの季節浴を楽しんで貰うこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼間おきてもらって夜にぐっすり眠れるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が翌日の薬の仕分けをする。鍵のかかる棚に保管している。薬の説明書は個別にファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で出来ることは手伝っていただく。天気の良い日は外でリハビリ体操や歌をうたったり、昼飯を食べている。		

H25自己・外部評価表(GH三春)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があればスタッフと一緒に散歩に行ったり、家族と外出したりしている。また天気の良い日は外気浴を行っている。	気候が良い時は近くの田園地帯を散歩し、近所の人からも気軽に声をかけて貰っている。桜や菖蒲の季節にはバスで出かける事もあるが、外出できない方が増えており、開設当時よりは外出レクが少なくなっている。その分、園庭でソーメン流し等に切り替えて楽しんで貰っている。	今後は、全員での外出レクに拘らず、3・4人の少人数での外出や、個別の要望に応えた外出を増やされる等、状況に合わせて、外出の機会を確保されることに期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定の現金を預かり、買い物に出かけた際は支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があればかけたり、取り次いだりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所間違い防止のため自室前に本人の写真や名前を貼りトイレ・浴室玄関にも大きな文字で表示している。常に適度な明るさ室内温度を保ち季節の花をテーブルの上に飾るなどして、季節感を味わっている。	木造りの落ち付いた雰囲気が漂う共用空間。南側には畳み敷きの空間が配置され、イベント時の舞台上で使用されたり、冬は炬燵を置いて団欒が楽しめるように工夫されていた。壁に三春便りや体験に訪れた小学生の感想文等が貼り出され、ホームでの暮らしが垣間見える思いがした。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやソファや自席にてテレビを見たり相談をしたり思い思いに過ごしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったりお位牌を置いて朝夕拝んだり、本人と家族をつなぐような物を置いている。	各部屋の入口に、入所時のお元気な写真が貼られており、心が和まされる。全室が畳敷きになっていて、ベッドや布団の使用などは各自の自由選択とのこと。神棚や連れ合いの方の遺影が飾られていて、ご家族との絆の強さが感じられた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の体調を見ながら出来る人はテーブル拭きをしたり、スタッフと一緒に洗濯物を干したりたたんだり行っている。		